

## 濊語初探

伊藤英人（専修大学）

### 要旨

「高句麗地名」中の日本語に類似した語は、朝鮮半島中部以北、鴨緑江以北に及ぶが、これらは濊語要素であると考えられる。濊人の活動は BC11 世紀以来確認される。濊人は、海民・内陸水系民として、水産加工品の物流販売の商業活動にも携わる越境する漁撈狩猟民的性格を持つ一方、定住農民として韓人と同一村落に共棲した。濊語は中国沿海から山東・遼東を経て朝鮮半島日本海岸に到達した百粵型の声調言語であったと考えられる。濊人は魏晋代には既に漢字の高いリテラシーを有し、世界初の変体漢文である「中原高句麗碑文」は濊人を媒介者として漢字の音訓を朝鮮半島に定着させた最初の例であると考えられる。757 年の地名改正による「高句麗地名」中の日本語に類似した音訓表記は濊語のそれによると考えられる。8 世紀濊語漢字表記の語、及び 6 世紀濊語の「島：\*sjema」と「邑：\*mura」をこれに加え、平声に始まる「平起語」と、上去入声に始まる「仄起語」に分けて、日本語平安アクセントと比較すると、「濊語平起語が平安アクセント L 始まりの語に対応する例」として「五：\*ytj」平去/LL、「七重：\*nanənper」平上入/LLH、「兎：\*usjegam」平平平/LHH、「心：\*kər」平-/LLH 及び「木：\*ker」平（～入）/L、「谷：\*tən」平/LL、「島：\*sjema」平平/LL の 7 語が、「濊語仄起語が平安アクセント H 始まりの語に対応する例」として、「水：\*me」上/H-、「鉛：\*namur」上入/ HHL（～LHL）、「三：\*mir」入/HL、「口：\*kurtji～\*kutji」入去～上去/HH、「十：\*tək」入/H、「穴：\*kapi」入上～入/HH（峽）、「邑：\*mura」上平/HL の 7 語が、「濊語表記の平仄と平安アクセントの対応が上述諸単語と異なるもの」として「入：\*i」平/HL、「深：\*puk-」入/LLF（深し）「蒜：\*mer」上-/LL-（薤根草）、「首：\*tjinjak」去入/LL（角）「池：\*nami」去上/LL（波）、「谷：\*tan」去/LL の 6 語が認められる。6～8 世紀濊語と古代日本語が何らかの系統的關係にある可能性が考えられることから、筆者は「濊倭祖語—大陸濊倭語（濊語派）—8 世紀濊語—10 世紀頃消滅」「濊倭祖語—列島濊倭語（倭語派）—日本語・琉球語・八丈語(?)」の系統的分岐を措定する。出土資料及び『日本書紀』地名の「牟羅」、『魏書』「烏丸鮮卑東夷伝韓条」地名の「牟盧」、及び出土資料の「斯麻」の分布から見て、濊語は慶尚道、全羅道を含む朝鮮半島全域で 3 世紀以来韓語と共に話されていたと考えられる。\*sima > \*sjema の変化から見て、濊語派は 6 世紀までに \*breaking of \*i を経験し、倭語派はそれを知らない時期に分岐したと考えられる。濊倭語族は朝鮮半島において韓語の影響によりアルタイ化を経験したと考えられ、一方、慶尚道方言、江原道三陟・江陵・寧越方言の「声調」等は日本海側に優勢であった濊語の影響による「地域特徴」であると考えられる。